



Cisco Unity ViewMail for Microsoft Outlook 7.0(2) リリースノート

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
米国サイト掲載ドキュメントとの差異が生じる場合があるため、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。
また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

Published May 21, 2008

このリリース ノートには、Cisco Unity ViewMail for Microsoft Outlook Release 7.0(2) のシステム要件、ダウンロードとインストールの手順、新規および変更された機能、制約と制限事項、および未解決の警告と解決済みの警告が記載されています。

各言語の ViewMail 7.0(2) ファイルは、シスコのソフトウェア ダウンロード Web サイトでのみ入手できます (ダウンロード元となる場所は、各リリース ノートの該当する手順の項に記載されています)。

ViewMail 7.0(2) の英語 (アメリカ合衆国) 版は、Cisco Unity 7.0(2) DVD 1 でご利用いただけます。



(注)

ソフトウェア ダウンロード Web サイトにアクセスするには、Cisco.com に登録ユーザとしてログインする必要があります。



Americas Headquarters:
Cisco Systems, Inc., 170 West Tasman Drive, San Jose, CA 95134-1706 USA

Copyright © 2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

OL-16764-01-J

目次

- [要件 \(P.3 \)](#)
- [関連資料 \(P.4 \)](#)
- [新規および変更された要件とサポート : Release 7.0\(2\) \(P.4 \)](#)
- [新規および変更された機能 : Release 7.0\(2\) \(P.4 \)](#)
- [インストールとアップグレードに関する情報 \(P.5 \)](#)
- [制約および制限事項 \(P.14 \)](#)
- [警告 \(P.17 \)](#)
- [マニュアルの入手方法および Service Request ツールの使用方法 \(P.19 \)](#)

要件

- ViewMail をインストールするには、ユーザ ワークステーションのローカル管理者権限を持っている必要があります。
- ユーザ ワークステーションには、ViewMail で使用する言語ごとに 2.5 MB 以上のハードディスク空き領域が必要です。
- ViewMail をインストールする際は、ユーザ ワークステーションで Outlook を実行しないでください。また、ウイルス検出サービスを無効にしてください。
- ViewMail のバージョンが、インストールされている Microsoft Outlook のバージョンおよびオペレーティング システムでサポートされている必要があります。Cisco Unity のバージョンに応じて、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/unity/compatibility/matrix/cuclientmtx.html にある『互換性マトリックス : Cisco Unity とユーザ ワークステーション上のソフトウェア』の該当する項を参照してください。
- ViewMail 7.0(2) をインストールする前に、以前にインストールした ViewMail バージョン 3.x をユーザ ワークステーションから削除する必要があります。P.14 の「ViewMail バージョン 3.x は完全にアンインストールできない」を参照してください。

互換性に関する情報

- ViewMail for Outlook、Cisco Unity (Exchange 版) およびユーザ ワークステーションのソフトウェアとの適合性が確認されたバージョンの組み合わせに関する情報(ユーザ ワークステーション上のソフトウェアのサポート ポリシーを含む)については、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/unity/compatibility/matrix/cuclientmtx.html にある『互換性マトリックス : Cisco Unity とユーザ ワークステーション上のソフトウェア』を参照してください。
- ViewMail 7.0(2) リリースで使用できる言語のリストは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/unity/7x/requirements/7xcusysreq.html にある『Cisco Unity 7.x システム要件』の「Cisco Unity コンポーネントで使用可能な言語」の項を参照してください。

ViewMail バージョンの特定

ユーザ ワークステーション上で使用している ViewMail のバージョンを特定する方法は 2 つあります。該当するいずれかの手順を実行します。

使用している ViewMail のバージョンを Outlook から特定する

ユーザ ワークステーション上の Outlook 受信トレイで、[ヘルプ]メニューの[バージョン情報]をクリックします。

使用している ViewMail のバージョンを [アプリケーションの追加と削除] から特定する

- ステップ 1** ユーザ ワークステーションで、[設定] > [コントロール パネル] > [アプリケーションの追加と削除] を選択します。
 - ステップ 2** [現在インストールされているプログラム] リストで、ViewMail for Outlook を検索します。
-

関連資料

Cisco.com 上の Cisco Unity のドキュメントに関する説明と URL については、『*Documentation Guide for Cisco Unity Release 7.x*』を参照してください。このドキュメントは Cisco Unity に同梱されており、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/unity/7x/roadmap/7xcudg.html でも入手できます。

新規および変更された要件とサポート：Release 7.0(2)

Microsoft Outlook 2000 はサポートされない

ViewMail 7.0(2) は Outlook 2000 ではサポートされていません。Outlook 2000 を使用しているユーザは、引き続き以前のバージョンの ViewMail を使用してください。

新規および変更された機能：Release 7.0(2)

メッセージ期間のタグ付け

ViewMail 7.0(2) は、表示機能のあるクライアント (Phone View など) が録音の長さを表示できるように、Outlook クライアントから送信されたボイス メッセージにメッセージ録音期間をタグ付けします。

表示機能のあるクライアントを使用してメッセージを表示しているユーザは、他のメッセージ プロパティとともにメッセージ期間も確認できます。

インストールとアップグレードに関する情報

- [ViewMail を初めてインストールする際のタスク リスト \(P.5 \)](#)
- [ViewMail 7.0\(2\) へアップグレードする際のタスク リスト \(P.5 \)](#)
- [ViewMail 7.0\(2\) へアップグレードする際の考慮事項 \(P.6 \)](#)
- [ViewMail 7.0\(2\) のダウンロード \(P.6 \)](#)
- [ユーザワークステーションへのインストール前の ViewMail ソフトウェアのカスタマイズ\(P.7 \)](#)
- [ViewMail 7.0\(2\) のインストール \(P.12 \)](#)

ViewMail を初めてインストールする際のタスク リスト

ViewMail を新規にインストールする場合は、次のタスクを順に実行してください。

1. シスコのソフトウェア ダウンロード Web サイトから ViewMail をダウンロードします。P.6 の「[ViewMail 7.0\(2\) のダウンロード](#)」を参照してください。
2. インストールする前に、必要に応じて ViewMail ソフトウェアをカスタマイズします。P.7 の「[ユーザワークステーションへのインストール前の ViewMail ソフトウェアのカスタマイズ](#)」を参照してください。

ここでは、次のカスタマイズに関する情報が記載されています。

- メッセージの録音に G.729a 形式を使用する
- ViewMail でメッセージの保護機能を使用する
- ViewMail が Cisco Unity への RPC 接続に使用する TCP ポートを変更する



注意

ViewMail ソフトウェアのカスタマイズは、ユーザワークステーションにインストールする前に行う必要があります。インストール前にカスタマイズしなかった場合は、手動で変更を加えるか、設定管理ツールを使用して変更する必要があります。

3. ViewMail をインストールします。P.12 の「[ViewMail 7.0\(2\) のインストール](#)」を参照してください。

ViewMail 7.0(2) へアップグレードする際のタスク リスト

ViewMail の以前のバージョンを 7.0(2) へアップグレードする場合は、次のタスクを順に実行してください。

1. P.6 の「[ViewMail 7.0\(2\) へアップグレードする際の考慮事項](#)」を確認し、必要に応じて、バージョン 3.x をアンインストールします。
2. シスコのソフトウェア ダウンロード Web サイトから ViewMail をダウンロードします。P.6 の「[ViewMail 7.0\(2\) のダウンロード](#)」を参照してください。
3. インストールする前に、必要に応じて ViewMail ソフトウェアをカスタマイズします。P.7 の「[ユーザワークステーションへのインストール前の ViewMail ソフトウェアのカスタマイズ](#)」を参照してください。

ここでは、次のカスタマイズに関する情報が記載されています。

- メッセージの録音に G.729a 形式を使用する
- ViewMail でメッセージの保護機能を使用する
- ViewMail が Cisco Unity への RPC 接続に使用する TCP ポートを変更する



注意

ViewMail ソフトウェアのカスタマイズは、ユーザ ワークステーションにインストールする前に行う必要があります。インストール前にカスタマイズしなかった場合は、手動で変更を加えるか、設定管理ツールを使用して変更する必要があります。

4. ViewMail をインストールします。P.12 の「ViewMail 7.0(2) のインストール」を参照してください。

ViewMail 7.0(2) へアップグレードする際の考慮事項

ユーザは ViewMail バージョン 7.x を使用するための特殊な Class of Service (COS; サービス クラス) 特権やパスワードを持つ必要はありません。ViewMail をインストールしたすべての Cisco Unity コニファイドメッセージ ユーザが使用できます。



(注)

ViewMail 7.0(2) は Outlook 2000 ではサポートされていません。Outlook 2000 を使用しているユーザは、引き続き以前のバージョンの ViewMail を使用してください。

ViewMail 7.0(2) へアップグレードする前に、以前のバージョンに関して次の事項を考慮してください。

- ViewMail バージョン 7.0(2) にアップグレードするために、バージョン 5.x または 4.x をアンインストールする必要はありません。ViewMail 7.0(2) のインストールにより、ViewMail バージョン 5.x または 4.x は自動的に削除されます。

ViewMail 5.x または 4.x の削除時に問題が発生した場合は、

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod_tech_notes_list.html にあるテクニカル ノート「Cisco Unity VMO Is Installed, But Not Published in Outlook」で、ViewMail を手動でアンインストールする方法に関する項を参照してください。テクニカル ノートでは ViewMail のアンインストール手順は ViewMail バージョン 3.0(1) および 4.0(1) に適用されるとしていますが、ViewMail バージョン 5.x および 4.x にも適用されます。

- ViewMail 7.0(2) をインストールする前に、ViewMail バージョン 3.1(x) または 3.0(x) をユーザ ワークステーションから削除する必要があります。ViewMail 3.x は、ViewMail 7.0(2) へのアップグレードと同時にアンインストールできます。または、Windows の [アプリケーションの追加と削除] を使用して削除できます。ただし、アプリケーションを完全に削除するには、さらに手順を実行する必要があります。P.14 の「ViewMail バージョン 3.x は完全にアンインストールできない」を参照してください。

ViewMail 7.0(2) のダウンロード

シスコのソフトウェア ダウンロード Web サイトからソフトウェアをダウンロードするには、次の手順を実行します。

ViewMail 7.0(2) をダウンロードする

- ステップ 1** ファイルの解凍場所として使用するコンピュータのハードディスク空き領域が、ファイルのダウンロードに必要な領域の他に、次に示す必要最小限の領域があることを確認します (ダウンロード ファイルのサイズは、ダウンロード ページに表示されます)。

英語（アメリカ合衆国）版の場合のみ	4 MB + ダウンロード ファイルのサイズ
他の各国語版のファイルの場合	110 MB + ダウンロード ファイルのサイズ

- ステップ 2** 高速インターネット接続が可能なコンピュータで、
<http://tools.cisco.com/support/downloads/pub/Redirect.x?mdfid=280384298> にある Cisco Unified Communications のアプリケーション ダウンロード ページに移動します。



(注) ソフトウェア ダウンロード ページにアクセスするには、Cisco.com に登録ユーザとしてログインする必要があります。

- ステップ 3** ダウンロード ページのツリー コントロールで、Voice Mail and Unified Messaging > Cisco Unity を展開し、Cisco Unity ViewMail for Microsoft Outlook Version 7.0 をクリックします。

- ステップ 4** CiscoUnity.VMO7.0.2.exe ファイルを任意のディレクトリにダウンロードします。

- ステップ 5** CiscoUnity.VMO7.0.2.exe をダブルクリックし、画面の指示に従って選択したネットワーク ドライブの任意のディレクトリにファイルを解凍します（あるいは書き込み可能な CD に解凍して、後でネットワークにコピーします）。

選択したディレクトリ内に CiscoUnity.VMO7.0.2 ディレクトリが作成され、そこにファイルが解凍されます。

- ステップ 6** CiscoUnity.VMO7.0.2.exe ファイルを削除して、ハード ディスクの空き領域を増やします。

ユーザ ワークステーションへのインストール前の ViewMail ソフトウェアのカスタマイズ



注意

ViewMail ソフトウェアのカスタマイズは、ユーザ ワークステーションにインストールする前に行う必要があります。インストール前にカスタマイズしなかった場合は、手動で変更を加えるか、設定管理ツールを使用して変更する必要があります。一部のアップグレードでは、ViewMail インストール プログラムを再実行しても該当するレジストリ設定が変更できない場合があります。この場合には、設定管理ツールを使用する必要があります。

インストールするために ViewMail ソフトウェアをカスタマイズする手順については、該当する項を参照してください。

- メッセージの録音に G.729a 形式を使用するために ViewMail をカスタマイズする (P.8)
- メッセージを保護するために ViewMail をカスタマイズする (P.9)
- ViewMail がメッセージの保護に使用する RPC 接続用に TCP ポートをカスタマイズする(P.10)

メッセージの録音に G.729a 形式を使用するために ViewMail をカスタマイズする

Cisco Unity ViewMail for Microsoft Outlook は、メッセージの録音用に G.711 または G.729a コーデック形式をサポートしています。録音には、コンピュータのマイクを使用するか、Media Master から Paste from File コマンドを使用します。デフォルトでは、メッセージは G.711 形式で保存されます。

ViewMail によって、レジストリ キー HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Default Wave Format がインストールされます。デフォルトでは、レジストリ キーは、メッセージの録音に G.711 形式を使用するように設定されています。G.729 形式を使用できるようにするには、管理者が ViewMail.msi ファイルのレジストリ キーの値を変更してから、ユーザーワークステーションに ViewMail をインストールする必要があります。



注意

ViewMail 4.2(2) 以降がユーザーワークステーションにすでにインストールされている場合は、ViewMail インストール プログラムを再度実行しても、レジストリ設定は変更されません。管理者は、設定管理ツール (Microsoft Systems Management Server など) を使用してレジストリ設定を変更するか、または ViewMail を一度アンインストールしてから ViewMail.msi ファイルの設定を変更し、カスタマイズしたソフトウェアをインストールする必要があります。

メッセージの録音に G.729a 形式を使用するために ViewMail をカスタマイズする

- ステップ 1** ViewMail ファイルをダウンロードしたネットワーク ドライブで ViewMail ディレクトリを表示します。このディレクトリへの書き込み権限がない場合は、書き込み権限のあるディレクトリにファイルを移します。
- ステップ 2** ViewMail ディレクトリで、ENU 言語ディレクトリ (またはユーザのインストールに該当する言語のディレクトリ) を表示します。
- ステップ 3** メモ帳などのテキスト エディタで VMOInit.vbs ファイルを開きます。
- ステップ 4** `Session.Property("DefaultWaveFormat") = "5"` 行の前にある `rem` を削除します。次の例を参考にしてください。

```
Function VMOInitFn()
rem Session.Property("EXTENSION") = ""
rem Session.Property("UNITYSERVER") = ""
rem To enable NoTextToVM, set property NOTEXTTOVM to 1
rem Session.Property("NOTEXTTOVM") = "1"
rem To enable g729a recording, set property DefaultWaveFormat to 5
Session.Property("DefaultWaveFormat") = "5"
rem To enable secure messaging, set property ForceMessagesSecure to 1 (Always Force
Messages Secure) or 2 (Allow User To Choose).
rem By default, it is set to 0 (Always Send Messages Unsecure).
rem Session.Property("ForceMessagesSecure") = "1"
rem To change RPC Port Number for Encryption and Decryption, set property
RpcPortNumberForEncryptionAndDecryption to a new port number.
rem By default, it is set to 5050.
rem Session.Property("RpcPortNumberForEncryptionAndDecryption") = "5050"
End Function
```

- ステップ 5** スクリプト ファイルを保存し、テキスト エディタを閉じます。
- ステップ 6** [コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます (Windows の [スタート] メニューで、[プログラム] > [アクセサリ] > [コマンド プロンプト] をクリックします)。

- ステップ 7** ViewMail > ENU ディレクトリ（またはユーザのインストールに該当する言語のディレクトリ）に移動します。
- ステップ 8** 「vmaddbin ViewMail.msi VMOInit.vbs」と入力し、Enter を押します（スクリプトが完了すると、カーソルがコマンドラインに復帰します）。
- ステップ 9** テスト機で ViewMail.msi ファイルを実行し、インストールが正常に完了したことを確認します（インストールが正常に完了しなかった場合は、VMOInit.vbs に対して行われた変更を確認してください）。
- ステップ 10** [コマンド プロンプト] ウィンドウを閉じます。

メッセージを保護するために ViewMail をカスタマイズする

ユーザの Cisco Unity システムが、メッセージの保護機能を使用する設定の場合、ViewMail は、Cisco Unity サーバとの接続が確立できるときにのみ保護されたメッセージの再生および送信が可能です。ViewMail によってレジストリ キー HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Force Messages Secure がユーザ ワークステーションにインストールされます。

ユーザが Outlook をオフライン モードで使用中に ViewMail を使用して保護されたメッセージを送信しようとするか、ViewMail が何らかの理由で Cisco Unity サーバと通信できない場合は、ViewMail は、レジストリ キーの値に応じて次のいずれかの操作を行います。

- 0 : Cisco Unity サーバとの接続を試行せずに、メッセージを暗号化せずに送信する。
- 1 : Cisco Unity との接続が確立できなかったという警告をユーザに通知する（ユーザはこのメッセージを保存し、後で再送信する必要があります）。
- 2 : メッセージは暗号化されないことをユーザに警告し、暗号化しない送信というオプションを提示する。

レジストリ キーはデフォルトでゼロに設定されます。メッセージを暗号化して ViewMail から送信するには、管理者は ViewMail.msi ファイルのレジストリ キーの値を変更してからユーザ ワークステーションに ViewMail をインストールする必要があります。



注意

ViewMail 5.0(1) 以降がユーザ ワークステーションにすでにインストールされている場合は、ViewMail インストール プログラムを再度実行しても、レジストリ設定は変更されません。管理者は、設定管理ツール（Microsoft Systems Management Server など）を使用してレジストリ設定を変更するか、または ViewMail を一度アンインストールしてから ViewMail.msi ファイルの設定を変更し、カスタマイズしたソフトウェアをインストールする必要があります。

メッセージを保護するために ViewMail をカスタマイズする

- ステップ 1** ViewMail ファイルをダウンロードしたネットワーク ドライブで ViewMail ディレクトリを表示します。このディレクトリへの書き込み権限がない場合は、書き込み権限のあるディレクトリにファイルを移します。
- ステップ 2** ViewMail ディレクトリで、ENU 言語ディレクトリ（またはユーザのインストールに該当する言語のディレクトリ）を表示します。

ステップ 3 テキスト エディタで VMOInit.vbs を開きます。

ステップ 4 `Session.Property("ForceMessagesSecure") = "1"` 行の前にある `rem` を削除します。次の例を参考にしてください。

```
Function VMOInitFn()
rem Session.Property("EXTENSION") = ""
rem Session.Property("UNITYSERVER") = ""
rem To enable NoTextToVM, set property NOTEXTTOVM to 1
rem Session.Property("NOTEXTTOVM") = "1"
rem To enable g729a recording, set property DefaultWaveFormat to 5
rem Session.Property("DefaultWaveFormat") = "5"
rem To enable secure messaging, set property ForceMessagesSecure to 1 (Always Force
Messages Secure) or 2 (Allow User To Choose).
rem By default, it is set to 0 (Always Send Messages Unsecure).
Session.Property("ForceMessagesSecure") = "1"
rem To change RPC Port Number for Encryption and Decryption, set property
RpcPortNumberForEncryptionAndDecryption to a new port number.
rem By default, it is set to 5050.
rem Session.Property("RpcPortNumberForEncryptionAndDecryption") = "5050"
End Function
```

ステップ 5 Outlook がオフライン モードにあるときに暗号化されていないメッセージの送信をユーザが選択できるようにするには、「1」を「2」に変更します。

ステップ 6 スクリプト ファイルを保存し、テキスト エディタを閉じます。

ステップ 7 [コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます (Windows の [スタート] メニューで、[プログラム] > [アクセサリ] > [コマンド プロンプト] をクリックします)。

ステップ 8 ViewMail > ENU ディレクトリ (またはユーザのインストールに該当する言語のディレクトリ) に移動します。

ステップ 9 「vmaddbin ViewMail.msi VMOInit.vbs」と入力し、Enter を押します (スクリプトが完了すると、カーソルがコマンドラインに復帰します)。

ステップ 10 テスト機で ViewMail.msi ファイルを実行し、インストールが正常に完了したことを確認します (インストールが正常に完了しなかった場合は、VMOInit.vbs に対して行われた変更を確認してください)。

ステップ 11 [コマンド プロンプト] ウィンドウを閉じます。

ViewMail がメッセージの保護に使用する RPC 接続用に TCP ポートをカスタマイズする

Cisco Unity システムがメッセージの保護機能を使用する設定の場合は、Cisco Unity は、ViewMail クライアントからの着信 RPC 接続要求に TCP ポート番号 5050 を使用して、保護されたメッセージを暗号化および復号化します。ほとんどの場合に、デフォルトの設定で問題ありません。ただし、ファイアウォール用にポートを変更する場合があります。このときは未使用の TCP ポートを使用できます。

使用中のポートを変更するには、最初に Cisco Unity サーバで変更を加えてから、ViewMail.msi ファイルを変更する必要があります。

Cisco Unity サーバを設定する手順の詳細については、
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod_maintenance_guides_list.html にある
『Cisco Unity セキュリティガイド』の「ユーザメッセージの保護」の章の「ViewMail for Outlook が
メッセージの暗号化と暗号解除に使用する TCP ポートのカスタマイズ」の項を参照してください。

ViewMail によってレジストリ キー HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco
Unity\VMO\RPC Port Number for Encryption and Decryption がユーザ ワークステーションにインス
トールされます。



注意

ViewMail 5.0(1) 以降がユーザ ワークステーションにすでにインストールされている場合は、
ViewMail インストール プログラムを再度実行しても、レジストリ設定は変更されません。管理者
は、設定管理ツール (Microsoft Systems Management Server など) を使用してレジストリ設定を変
更するか、または ViewMail を一度アンインストールしてから ViewMail.msi ファイルの設定を変更
し、カスタマイズしたソフトウェアをインストールする必要があります。

ViewMail がメッセージの保護に使用する RPC 接続用に TCP ポートをカスタマイズする

- ステップ 1** ViewMail ファイルをダウンロードしたネットワーク ドライブで ViewMail ディレクトリを表示しま
す。このディレクトリへの書き込み権限がない場合は、書き込み権限のあるディレクトリにファイル
を移します。
- ステップ 2** ViewMail ディレクトリで、ENU 言語ディレクトリ (またはユーザのインストールに該当する言語
のディレクトリ) を表示します。
- ステップ 3** テキスト エディタで VMOInit.vbs ファイルを開きます。
- ステップ 4** `Session.Property ("RpcPortNumberForEncryptionAndDecryption") = "5050"` 行の前にある `rem` を削
除します。次の例を参考にしてください。

```
Function VMOInitFn()
rem Session.Property("EXTENSION") = ""
rem Session.Property("UNITYSERVER") = ""
rem To enable NoTextToVM, set property NOTEXTTOVM to 1
rem Session.Property("NOTEXTTOVM") = "1"
rem To enable g729a recording, set property DefaultWaveFormat to 5
rem Session.Property("DefaultWaveFormat") = "5"
rem To enable secure messaging, set property ForceMessagesSecure to 1 (Always Force
Messages Secure) or 2 (Allow User To Choose).
rem By default, it is set to 0 (Always Send Messages Unsecure).
rem Session.Property("ForceMessagesSecure") = "1"
rem To change RPC Port Number for Encryption and Decryption, set property
RpcPortNumberForEncryptionAndDecryption to a new port number.
rem By default, it is set to 5050.
Session.Property("RpcPortNumberForEncryptionAndDecryption") = "5050"
End Function
```

- ステップ 5** "5050" を Cisco Unity サーバに設定した TCP ポート番号に変更します。
- ステップ 6** スクリプト ファイルを保存し、テキスト エディタを閉じます。
- ステップ 7** [コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます (Windows の [スタート] メニューで、[プログラ
ム] > [アクセサリ] > [コマンド プロンプト] をクリックします)。

- ステップ 8** ViewMail > ENU ディレクトリ (またはユーザのインストールに該当する言語のディレクトリ) に移動します。
- ステップ 9** 「vmaddbin ViewMail.msi VMOInit.vbs」と入力し、Enter を押します (スクリプトが完了すると、カーソルがコマンドラインに復帰します)。
- ステップ 10** テスト機で ViewMail.msi ファイルを実行し、インストールが正常に完了したことを確認します (インストールが正常に完了しなかった場合は、VMOInit.vbs に対して行われた変更を確認してください)。
- ステップ 11** [コマンド プロンプト] ウィンドウを閉じます。

ViewMail 7.0(2) のインストール

ViewMail は、さまざまな方法で組織内のユーザ ワークステーションにインストールできます。インストールおよび展開には、次のような方法があります。

- ViewMail をディスクまたはネットワーク ドライブからインストールする。P.13 の「Cisco Unity ディスクまたはネットワーク ドライブからの ViewMail 7.0(2) のインストール」を参照してください。また、ユーザが自分で ViewMail をインストールできるように、ViewMail セットアッププログラムへのネットワーク アクセスを提供し、手順を通知することも検討してください。
- Microsoft IntelliMirror や Microsoft Systems Management Server (SMS) などのソフトウェア配布 ツールを使用して、ViewMail を複数のユーザ ワークステーションに一度に展開する。これらのツールの使用方法については、Microsoft の Web サイトを参照してください。
IntelliMirror を使用して ViewMail を展開する場合は、個々のユーザではなくコンピュータに対して ViewMail を割り当てるか配布します。また、IntelliMirror や SMS を利用して ViewMail の将来のアップグレードを配布することもできます。
- Office 2003 パッケージ、Office XP パッケージの一部として、Microsoft Office とともに ViewMail を展開する。



注意

ユーザワークステーション上に新しいバージョンの Microsoft Outlook をインストールする場合は、最初に ViewMail をアンインストールする必要があります。Microsoft Outlook をインストールした後で、ViewMail を再インストールします。この作業を行わない場合、ViewMail は新しいバージョンの Outlook とともに正しくインストールされているように見えても、実際は機能しません。

デフォルトでは、ViewMail のファイルは C:\Program Files\ViewMail ディレクトリにインストールされます。ViewMail を初めてインストールする場合は、別のディレクトリを指定することもできます。ViewMail バージョン 5.x または 4.x からアップグレードしている場合、バージョン 7.0(2) は前のバージョンと同じディレクトリにインストールされます。

ViewMail では、次のファイルとレジストリ キーをインストールして使用します。

ファイル ¹	<ul style="list-style-type: none"> • AvResLoaderSvrSL.dll • AvResSvr.dll • AvTrapConnectionHolderSvr.dll • AvTsmSL.dll • AvVox.acm • AvWavSL.dll • SL_g729a.acm
レジストリ キー	<ul style="list-style-type: none"> • HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\Media Master\Profiles • HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\Media Master\Profiles\default • HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Options • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Active Voice • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Default Wave Format • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Force Messages Secure • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\NoText ToVM • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\RPC Port Number for Encryption and Decryption • HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Profiles\<subscriber 1 alias> • HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Profiles\<subscriber 2 alias> • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Exchange\Client\Extensions\View Mail Extensions

1. Windows のバージョンに応じて、ファイルは C:\Windows\System、C:\Winnt\System32、または C:\Windows\System32 のいずれかのディレクトリにインストールされます。

Cisco Unity ディスクまたはネットワーク ドライブからの ViewMail 7.0(2) のインストール

Cisco Unity ディスクまたはネットワーク ドライブからユーザワークステーションに ViewMail をインストールするには、この項の手順を実行します。1 台のワークステーションを共有する複数のユーザ用に ViewMail をインストールすることもできます。

Cisco Unity ディスクまたはネットワーク ドライブから ViewMail 7.0(2) をインストールする

- ステップ 1** ViewMail の要件が満たされていることを確認します。P.3 の「要件」を参照してください。
- ステップ 2** Cisco Unity 7.0(2) DVD 1 または ViewMail ファイルをダウンロードしたネットワーク ドライブで ViewMail ディレクトリを表示します。
- ステップ 3** ViewMail ディレクトリで、該当する言語のフォルダを表示します (ViewMail ディレクトリには、ViewMail がサポートしている言語ごとに個別のフォルダがあります)。
- ステップ 4** ViewMail.msi ファイルをダブルクリックします。

ステップ 5 画面の指示に従ってインストールを完了します。

制約および制限事項

Authentium Command AntiVirus for Windows はサポートされない

Authentium Command AntiVirus for Microsoft Windows は、Cisco Unity のユーザワークステーションではサポートされません。

ユーザワークステーション上の一部のソフトウェアによって ViewMail がエラーになる

一部のセキュリティソフトウェアおよび VPN ソフトウェアがユーザワークステーションにインストールされていると、ユーザが電話を Media Master の再生デバイスとして使用したときに、ViewMail がエラーになる可能性があります。特に、パーソナルファイアウォールを提供するソフトウェアでは問題が発生しやすいと考えられます。

セキュリティソフトウェアと VPN ソフトウェアを使用不可にするか、ユーザワークステーションから削除してください。または、ユーザが ViewMail のメッセージをコンピュータのスピーカで再生できるように Media Master を設定します。

ユーザのメールボックスがいっぱいになると ViewMail フォームがロードされない

ユーザのメールボックスが [送受信を禁止する] の制限値に達している場合は、ユーザが Outlook を起動しても ViewMail はロードされません。ViewMail フォームは、メールボックスのサイズを小さくするまでパブリッシュできません。

ViewMail バージョン 3.x は完全にアンインストールできない

ViewMail バージョン 3.1(x) または 3.0(x) をアンインストールしようとする、ViewMail は通常、完全にアンインストールできません。一部の ViewMail ファイルがユーザワークステーションに、ViewMail のコンポーネントが Outlook に残ります。また ViewMail は、Windows の [アプリケーションの追加と削除] のリストから削除されません。さらに、ViewMail バージョン 3.x をアンインストールすると、Windows 2000 の Dr.Watson エラー ログまたは Windows 98 のアプリケーション違反エラーが生成されます。

詳細については、警告 CSCdv16845 を参照してください。Bug Toolkit は、<http://www.cisco.com/go/bugs> から入手できます。

この警告は ViewMail 4.0(x) では解決されていますが、それ以前のバージョンでは解決されていないことに注意してください。以前のバージョンの場合は、次の 3 つの手順を順番に実行して、ユーザワークステーションから残りの ViewMail ファイルを、Outlook から ViewMail コンポーネントを、また Windows の [アプリケーションの追加と削除] から ViewMail のリストを、それぞれ手動で削除します。

ユーザワークステーションから ViewMail ファイルを削除する

- ステップ 1** Program Files\ViewMail ディレクトリとそのコンポーネントをすべて削除します。
- ステップ 2** 次の 7 つのファイル（存在する場合）を、Windows のバージョンに応じて C:\Windows\System、C:\Winnt\System32、または C:\Windows\System32 のいずれかのディレクトリから削除します。
- AvResLoaderSvrSL.dll
 - AvTrapConnectionHolderSvr.exe
 - AvTsmSL.dll
 - AvVox.acm
 - AvWavSl.dll
 - AvResSvr.dll
 - SL_G729A.acm
-

Outlook から ViewMail コンポーネントを削除する

- ステップ 1** Outlook の [ツール] メニューで、[オプション] をクリックします。
- ステップ 2** [その他] タブをクリックし、[詳細オプション] をクリックします。
- ステップ 3** [詳細オプション] ダイアログボックスで、[ユーザ設定フォーム] をクリックします。
- ステップ 4** [オプション] ダイアログボックスで、[フォームの管理] をクリックします。
- ステップ 5** [フォーム マネージャ] ダイアログボックスの [個人用フォーム] に ViewMail for Outlook が表示されていることを確認します。
- ステップ 6** [ViewMail for Outlook] を選択し、[削除] をクリックします。プロンプトが表示されたら、[はい] をクリックしてフォームを削除します。
- ステップ 7** [閉じる] をクリックして、[OK] をクリックします。
- ステップ 8** [詳細オプション] ダイアログボックスで [アドイン マネージャ] をクリックします。
- ステップ 9** [アドイン マネージャ] ダイアログボックスで、[ViewMail Extensions] チェックボックスのチェックを解除して、[OK] をクリックします。
- ステップ 10** [OK] をクリックして残りのダイアログボックスを閉じます。
- ステップ 11** Regedit を起動します。



注意

不正なレジストリ キーの変更や、不正な値の入力によって、ワークステーションが起動しなくなることがあります。レジストリを編集する前に、問題発生時のレジストリの復元方法を確認してください（レジストリ エディタのヘルプで「レジストリを復元する」を参照してください）。レジストリ キー設定の変更に関するご質問は、Cisco TAC にお問い合わせください。

ステップ 12 レジストリの現在のバックアップがない場合は、[**レジストリ**] > [**レジストリ ファイルの書き出し**] をクリックし、ファイルにレジストリ設定を保存します。

ステップ 13 次のキーを展開します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Exchange\Client\Extensions

ステップ 14 [**ViewMail Extensions**] キーを削除します。

ステップ 15 Regedit を終了します。

ステップ 16 Outlook を再起動します。

Windows の [アプリケーションの追加と削除] のリストから ViewMail を手動で削除する

Microsoft Product Support Services Web サイトの Knowledge Base 記事 247501 (*How to Manually Remove Programs from the Add/Remove Programs List*) を参照してください。

Windows ターミナル サービスはサポートされない

Windows Terminal Services (WTS; Windows ターミナル サービス) は、ViewMail を使用するユーザーワークステーションではサポートされません。

YAMAHA 製のシンセサイザ ソフトウェアはサポートされない

YAMAHA 製のサウンド シンセサイザ ソフトウェアは、ViewMail を使用する Cisco Unity ユーザーワークステーションではサポートされません。

警告

この項には、現リリースの重大度 1、2、および 3 の警告が記載されています。

顧客が必要に応じて問題点を問い合わせることができるオンライン ツール、Bug Toolkit を使用して、すべてのリリースについての重大度の警告だけでなく、ViewMail for Outlook バージョン 7.0(2) に関する最新の警告情報も検索できます。Bug Toolkit は、<http://www.cisco.com/go/bugs> から入手できます。



(注) Bug Toolkit にアクセスするには、Cisco.com に登録ユーザとしてログオンする必要があります。

この項には、ViewMail for Outlook リリース 7.0(2) に関する警告だけが記載されています。ViewMail の以前のバージョンに関する警告については、当該バージョンのリリース ノートを参照してください。ViewMail for Outlook のどのバージョンのリリース ノートも、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicew/ps2237/prod_release_notes_list.html から入手できます。

Release 7.0(2) の未解決の警告

Bug Toolkit で警告に関する最新情報を表示するには、警告番号の列のリンクをクリックしてください (警告は、重大度別、さらにコンポーネント別に分類され、警告番号順で一覧されています)。

表 1 ViewMail リリース 7.0(2) の未解決の警告

警告番号	重大度	コンポーネント	説明
CSCsg72153	3	viewmail	TRaP causes Event Viewer warnings on client
CSCsi39378	3	viewmail	Forward/Reply w/ voice actions missing in Outlook 2k7

解決済みの警告 : Release 7.0(2)

Bug Toolkit で警告に関する最新情報を表示するには、警告番号の列のリンクをクリックしてください (警告は、重大度別、さらにコンポーネント別に分類され、警告番号順で一覧されています)。

表 2 ViewMail リリース 7.0(2) の解決済みの警告

警告番号	重大度	コンポーネント	説明
CSCae08063	2	viewmail	CPR - Get error whenever load Outlook Today. Disabling Viewmail extends
CSCae08070	2	viewmail	installing VMO on a system that uses LF as 3rd party fax, hoses up the
CSCdu88256	2	viewmail	VMO does not install on W2K Pro
CSCdv23404	2	viewmail	VMO - Unknown problems are preventing connection to the server
CSCdx46568	2	viewmail	VMO: MSI installer does not overwrite pre-4.0 VMO files
CSCdz26089	2	viewmail	VMO: Cannot install with Outlook XP
CSCec55872	2	viewmail	VMO pauses randomly when recording & stops recording after 3 minutes
CSCed85780	2	viewmail	Outlook 2003 users on Exchange 2003 are missing voicemails
CSCee03366	2	viewmail	If XP SP2 is applied on a system, Trap doesnt work on VMO
CSCee19234	2	viewmail	Unity hangs after listening to voicemail via VMO
CSCee33872	2	viewmail	Not able to play msg thru VMO/TRAP with unity earlier than 4.0.3.145
CSCee42788	2	viewmail	Only first part of msg is record if pause when recording thru TRaP

表2 ViewMail リリース 7.0(2) の解決済みの警告 (続き)

警告番号	重大度	コンポーネント	説明
CSCef77212	2	viewmail	VMO 4.0(4) will not work with Unity 4.0(3) or earlier Unity release
CSCsk90629	2	viewmail	VMO prevents Outlook 2007 from starting
CSCae04001	3	viewmail	VMO/VMM setup not branded by the old process
CSCdv73029	3	viewmail	VMO: Install/Uninstall dialogs missing the word Outlook
CSCdw55666	3	viewmail	Silent VMO still requires directory confirmation
CSCdw87894	3	viewmail	VMO: Need to remove setup.exe from the build
CSCdx03953	3	viewmail	VMO: Need to unpublish the VMO form if VMO is not installed
CSCdx43144	3	viewmail	VMO: VBS script to modify MSI file does not work
CSCdz11644	3	viewmail	VMO: Uninstalling VMO on the Unity server causes Unity crash
CSCdz14008	3	viewmail	VMO: Play the voice msg automatically option does not work
CSCdz25268	3	viewmail	VMO: Need warning about open/close Outlook on 3.X upgrades
CSCdz30367	3	viewmail	VMO-MSI install with user not administrator gives weird error
CSCdz48740	3	viewmail	No reliable way to prevent RPC Hang at customer sites
CSCea30718	3	viewmail	VMO Outlook Assertion error if open voice msg after reply/forward
CSCec66860	3	viewmail	VMO-Cant bring up Viewmail with Outlook2003 on both Win2k&XP
CSCee33885	3	viewmail	Only last part of msg is record if pause during recording thru TRaP
CSCee53876	3	viewmail	TRaP Doesnt work after VMO upgrade
CSCef49856	3	viewmail	VMO Cannot bring up ViewMail with Outlook For Chinese(PRC)
CSCef70075	3	viewmail	ViewMail.msi is missing localizable entry for ZHH
CSCef70123	3	viewmail	ViewMail.msi is missing localizable entry for HUN
CSCeg12958	3	viewmail	VMO 4.0.4 will crash when attempting to access 0k message
CSCeg35886	3	viewmail	Editing message of VM in Outlook crashes Outlook and corrupts wav file.
CSCsa65337	3	viewmail	VMO: Cannot use TRaP if message moved to Personal Folder
CSCsc13480	3	viewmail	VMO settings are not preserved if upgraded from 4.0(1..4) to 4.1
CSCsf03101	3	viewmail	VMO: Upgrading to 4.21,4.22, 5.0 does not retain some registry settings
CSCsl00137	3	viewmail	ViewMail for Outlook: No audio devices of the PC in playback options
CSCsl59482	3	viewmail	VMO reports errors when form is published by not locally installed
CSCuk44325	3	viewmail	Sending a message in VMO w/.wav file attached generates notification

マニュアルの入手方法および Service Request ツールの使用方法

マニュアルの入手方法、Service Request ツールの使用方法、および追加情報の収集方法については、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。『*What's New in Cisco Product Documentation*』には、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

Really Simple Syndication (RSS) フィードとして『*What's New in Cisco Product Documentation*』に登録し、リーダアプリケーションを使用して、コンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定します。RSS フィードは無料サービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

CCDE, CCENT, Cisco Eos, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco StadiumVision, the Cisco logo, DCE, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark; and Access Registrar, Aironet, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, IronPort, the IronPort logo, LightStream, Linksys, MediaTone, MeetingPlace, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PCNow, PIX, PowerPanels, ProConnect, ScriptShare, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, TransPath, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0805R)

このドキュメントで使用しているインターネット プロトコル (IP) アドレスは、実在のアドレスではありません。ドキュメント中で示される例、コマンドの画面出力、および図は、いずれも視覚的な説明のみを目的としています。実在する IP アドレスが例示されていた場合、それらは意図して使用したものではありません。

Copyright © 2008 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2008, シスコシステムズ合同会社 .
All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。

シスコシステムズでは以下のURLで最新の日本語マニュアルを公開しております。
本書とあわせてご利用ください。

Cisco.com 日本語サイト

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/

日本語マニュアルの購入を希望される方は、以下のURLからお申し込みいただけます。

シスコシステムズマニュアルセンター

<http://www2.hipri.com/cisco/>

上記の両サイトで、日本語マニュアルの記述内容に関するご意見もお受けいたしますので、
どうぞご利用ください。

なお、技術内容に関するご質問は、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。



シスコシステムズ合同会社

〒 107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先 (シスココンタクトセンター)

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter>

0120-933-122 (通話料無料)、03-6670-2992 (携帯電話、PHS)

電話受付時間: 平日 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00